

(2) 対話的な学びの考え方

「対話的な学び」とは、子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めること。



「対話的な学び」とは、学習の形態のことでありません。

グループ学習やペアトーク等の話し合いの活動だけではありません。



話し合い活動以外にも

- ◇先哲との対話
- ◇作者との対話
- ◇自己内対話(過去や未来の自分との対話等)
- ◇思考ツールやICTを活用した対話等、様々に考えられます。

【作者との対話の例】

宮沢賢治さんの本では、他にも生と死の対比に関わる作品が多かったので、賢治さんは、「命」や「真剣に生きる」ことを大切にしているのだと思いました。

国語の授業後の児童の振り返りです。宮沢賢治の考え方や生き方を想像しながら書いていることがわかります。

【ICT機器を使った対話】



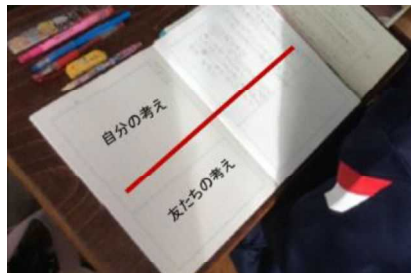
自分の考えを書いて、伝え合うことができます。声を出さなくても、視覚的に伝えることができます。

【ハンドサインを使った対話】



グループにならなくても、声を出さなくても、自分の立場や意志を伝えることができます。

【ノートによる対話】



上段に自分の考えを書き、下段に友達の考えを書き、比べています。これも友達との対話と言えます。比べることにより、自分の考えを広げ深めることが期待できます。

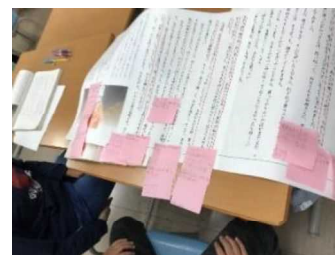
【過去の自分との対話の例】



自分のノートをペラペラとめくりながら、課題の解決に取り組んでいます。

前時での学びを確認したり、見直したりすることは、過去の自分と対話をしていると言えます。

【付箋を使った対話】



考えを付箋に書き、班で読み合うことで、様々な考えを知ることができます。班による対話と同じ効果が期待できます。